

# JIA 長野県クラブ 26

社団法人 日本建築家協会

1997. 4. 1



3月10日長野市山王共済会館で行われた第5回文化講演会でエッセイストの玉村豊男氏（東部町在住）が「山国の民の想像力」をテーマに講演



## JIAに育てられて

副代表  
松下重雄

JIA・日本建築家協会は今年で10歳の誕生日を迎えることになりました。一足早く自分にとってのJIAを振り返ってみました。

10年前というと私も45歳、東京から郷里にUターンし約10年が経ち鳴かず飛ばずで悶々としていました。飯田の南島先生の推薦で長野県設計監理協会に加入していましたが、京都国際会議場での設・監・連全国大会で池田武邦先生の「職能確立のため設・監・連と建築家協会が同時解散し一同団結して新しい団体を／…」という提言を興奮して聴いたものでした。伊藤宗春先生もご一緒でした。

赤坂プリンスホテルでの設立大会では丹下初代会長はじめ建築雑誌を賑わす著名な建築家の中で、場違いの所へ来てしまったような気持ちでした。そんな時、きまって遠くから手招きで宮本先生が「オーイ、松っちゃん」と声をかけてくれ大先生と思っていた方々に紹介をして下さいました。有難くも夢のような思い出です。

それからは支部の会員委員会や役員末席を汚してまいりましたが、10年間の歴史に立会い振り返ると自分がJIAによって育てられたことを強く感じます。今では自分より若い仲間たちに囲まれ、「社会に向けて行動する建築家集団」を次の視線に、共に頑張りたいと思います。



## 10周年を迎え、今何をすべきか…

副代表  
上村保弘

関東甲信越支部の総務委員会へ出席すると「世の中よくならないですね」の会話から始まります。期末毎に会費未納者数が発表になります。2年未納者420余名、3年未納者240余名。一向に好転しそうもありません。国の財政再建もそうですが、なかなか解決策が見つからない。しかし、JIAはけっしてそうではないと思います。JIAの進むべき道を明確にし、もっと会員が身近に感じられることを掲げるべきではないでしょうか。会員のメリットについても、JIAがなくてはならないものだという意識を持てるだけの内容が必要です。

このことについては、単なる危機感の議論だけでなく、どうしよう、どうしたらよいか、という具体策を時間をかけて議論していかなければいけないと思います。

前回の委員会でも発言させて頂きましたが、各委員会で、いやすべての委員会で議論し提案されたものを執行部でまとめ、発表して頂ければと思います。

本年度は10周年記念大会も予定されています。見直すには良い機会だと思います。地域会の創設も同じで「何のために」というところが今はまだ見えてきません。

コミュニティを小さく分けることによって顔見知りになり、それが会費徴収の役に立つのではないかと、ではなく、前述の議論をきちんとすれば、地域会の役割も姿も見えてくると思いますし、その後でも遅くないと思います。

北信



HOME

篠田 博文  
(株)マルタ設計長野支所

少し前になりますが、店舗の設計に関わったときサンフランシスコへ行って来たことがあります。オーナーをはじめこの仕事に携わる工務店、インテリアデザイナー、家具、写真家等の皆さん総勢8名で店づくりの研修に出かけたのです。こういう店をつくりたいというコンセプトがオーナーに強くありましたので、関連するところをあちこちと見・聞・体験してきました。そんな中HOME DEPOT, HOME BASE, DESIGN CENTERなども見学してきましたがその規模の大きさ、内容の充実さには驚きました。ホームデポ、ホームベースは家(HOME)を建てるために必要なありとあらゆる建材、商品の全てを揃えています。ここに来て調達できない物はないでしょう。デザインセンターも同じくインテリアに関するタイル、クロス、家具、照明、衛生器具etc. ここですべて用が足りるのです。どちらも一般市民から専門業者にまで利用されています。日本のホームセンターも起源はここでしょうが大きな違いを感じました。

アメリカの人達が日曜大工的に家づくりを自ら手がけている所をテレビなどでもよく見かけますね。私の家の近くにもアメリカの家族が住んでいます。自分で家建てていました。(もちろん本業ではありません)建築後も車庫の増築、ペンキの塗り替え、ウッドデッキテラス…等、何でも自分でやっています。時には友達がきて手伝ったりもしていましたが、本当につくることを楽しんでいるんです。まあここまでやるのは稀だとしても、一般的にアメリカの人たちの家(HOME)に対する関心度は高いと思います。そのような国民性がHOME DEPOT, DESIGN CENTERに大きく表れているということでしょう。これらはセミプロ、プロの為の店なのです。

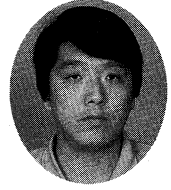
家への関心の高さは性能面にも表れています。断熱、気密の施工法には感心しました。これらをしっかり施工することは職人の常識となっているので、日本で口うるさく指示してもなかなかやってもらえないのとは大きな違いです。反面、納まりのシンプルさ(雑さ?)は器用な日本人には受け入れられにくいでしょう。これも常識の違いであることは言うまでもありません。

日本でも自宅を自営工事で建てた、ログのセカンドハウスを自分でつくったという話題を耳にすることも多くなってきましたが、歴史、文化、社会環境の違いが大きく、わが国ではこれからということでしょうか。

でも家づくりに興味を持ち、余暇を利用しながら自分で造るということは素晴らしいと思います。

そんなゆとりも欲しいですね。

東信



真に「障害者」に  
 配慮した施設づくりを

土屋 長命  
(株)シティープラン

この頃よく耳にする言葉として、障害者に配慮した建物、福祉のまちづくり等、一般的に生活弱者と呼ばれている方々が安心して生活できる環境を整備して、豊かな福祉社会を実現しようとの動きが出ています。

行政側も条例等を制定し、運用して各種建築物にスロープを付けなさい、手摺を取り付けなさい、車椅子対応の便所を設けなさい、また、点字ブロックを敷いて誘導しなさいと、指導されております。しかし、私は疑問に思うことがあります。

私は子供が2人おります。うち1人は障害を持っています。障害のランクは最重度と判定されています。身内に障害者のいない方はあまりご存じないと思いますが、障害者と呼ばれる方々は大きく分けて2通りあります。まず、身体的障害者、それから知的障害者です。

今、障害者に配慮した建物等で行われている改善は、前者の身体的障害者、中でも1人で行動出来る方(車椅子等の利用で)、あるいは、簡単な介助で外出する事が出来る方等で、多くの障害を持った方々のごく一部への対応を考慮しているだけの様にしか思えません。

今の動きが良くないとは申しません。今までに比べると一歩前進したと評価できます。しかし、これは始まりであって終わりではありません。

私の子供は知的障害者で、複数の病名があります。運動的な身体機能はそれほど障害がないため、1人で歩き回ったり、走る事もできますが、常に健常な大人が介護してやらないと生活できません。私の子供を含めて多くの障害を持った方々が、社会の隅の日の当たらない所に押し込められています。

形を作って〇〇に配慮した、〇〇を整備したという事は簡単です。それよりも一般の方々の意識を変えていかなければ何も始まりません。

この頃ボランティア活動が多くの方々に浸透してきていますが、障害者へのボランティアでは同じ病名の障害者でも行動パターンが違う、お互いのコミュニケーションが取れない等、身内の方々でも大変苦労しています。

私たちが一方的に障害者、健常者などと区別していますが、これは私たちの奢りではないでしょうか。障害を持った方々にすれば、私たちの方こそ心に障害を持っていると見えるのではないのでしょうか?

自分自身が何時障害を持つかわからない世の中です。少しでも意識を改革して世の中の人々が平等に生活できるようにしていけば、法律による規制をしなくても本当に人に優しい建物ができると思います。

## 南信



### ネットワークでメーカーに対抗

新井 優

新井建築工房+設計同人NEXT

昨年の5月に11年間お世話になった(有)みすゞ設計松下所長の元を飛び出して早10ヶ月余り。こうやって設計事務所としての顔で、まがりなりにも勝負できているのはこの11年間の蓄積に頼っているところが多く、つくづく『師』のありがたさを噛みしめている現在です。

さて、独立してから今日までの間、以前にも増してまちづくりの団体や、趣味が高じて任命された信州美術会の委員の会合やら社会活動に出席しています。建築家として誰にもない自分だけの「社会とのチャンネル」をどう築いて行けるかと共に、その場での発言が単に技術屋としてではない自分を育ててくれると思います。そんな自己研鑽の場がJIAではないでしょうか。

言い尽くされていますが、私の仕事の方法論は「ネットワーク」です。一人でもんもんとしては培った技術など一年で色あせてしまいます。建築に対する志や技術に対する考え方が近い工務店、建材メーカー、職人、森林組合、更にはランドスケープのアーキテクト達と、多方面に情報交換をして常に生きた情報と実際のコスト等を仕入れています。中央の大メーカーのカatalog選びに終始する設計作業を何とか方向転換しなければ、私たちの仕事も地域工務店も生き残れない危機感と、本当にそのネットワークが機能したときにはハウスメーカーが逆立ちしてでもできない家造りが同じ単価で実現することを、何とかして社会に証明することが目下の私の課題です。

ネットワークと言えばCAD化の話。独立してすぐ120万円かけてパワーマックと当時飯田では一人も使っていないMiniCadを導入。誰にもヒントすら教えてもらえず、それこそもんもんとマニュアルにとらめっこでやっと3ヶ月後にそれまでの手書きのレベルの早さになりました。今ではほとんどドラフターは使わずその時間を現場打ち合わせと模型製作の時間に使っています。今でも手書きで仕事をしていたと思うとゾッとします。製図板にトレペーを張り付けた感覚で作業が出来、3Dの機能もあるこのCADの素晴らしさを一人でも多くの方に味わってもらいたいものです。

皆さんも感じておられるように確実に建築(特に住宅)が変わろうとしています。室内環境汚染の問題や在来木造の耐震構造、ハイブリットな集成材による新木造の出現、高気密や高断熱、いろいろなソーラー技術、都市景観の問題、地元産材の使用、保存やストック型の建築等々。その中で本当に必要なものを選択して、最終的に心地良い『場』を実現する手段となりえるかを一般の施主にどう伝えていけるかがもう一つの課題と思っています。

最後の課題は寝る時間を確保することくらいです。

## 賛助会



### 皆で築きあげる

小野澤 秀世

中信電機㈱

同じテーブルで膝を交えながら、建築家の皆さんと賛助会員が各委員会のテーマに基づいて意見を交わし、時には鍋をつつつきながら、口角泡をとばすという光景がしばしば見られるようになりました。クラブ代表、副代表、各委員長さん方は頻りに開かれる会合にも積極的に出席されています。超多忙の仕事を犠牲にされていることは容易に察しがつきます。これらの事柄は当クラブの今を端的に表わしています。クラブ運営を極力開かれたものにしようという姿勢と、クラブをより発展させようという熱意であります。

この新しいエネルギーと大きな可能性を持ったクラブを皆で盛り立て、皆で良い組織に築き上げましょう。それには先ず参加することだと思います。結果はついて来ます。



### メーカーリストで 新しい情報交流を

萱場 健治

㈱タジマ

「君ィ、内装材のサンプル帳はもっとスリムにならないのォ?」とはPRに伺った先生方からの痛いお言葉。誠におっしゃる通りです。重い、かさばる、じゃまだとは(ハテ、我が身のことか?)と縮みあがりつつ、「サンプルがなかったから、ヨソへ決めたよ」のあの日の悪夢は繰り返してはならじと、ひたすら棚の片隅にでも、とお願いする日々であります。私達の周りにはこの古典的(?)なサンプル帳から最先端のデジタル化されたもので、質量共に膨大な情報が(良いことづくめで、一方的に?)用意され、気まぐれなご指名をひたすら待ち続けています。情報化が叫ばれて久しく、量だ、質だと駆け廻っていた発信側も少々バテ気味。伝達作業に終始した反省も込めて「情報は交流」との目線から新たな方向を探り始めた企業も多いようです。幸い今年には「賛助会メーカーリスト」更新の年とのこと。単なる名簿ではなく、お互いを身近に感じられる内容に工夫されるようです。このリストがよりよい情報交流のきっかけづくりとなるよう期待しています。

## クラブインサイド

### 第2回事業委員会

上村保弘

12月24日(火)開催。第5回文化講演会は、3月10日(月)に、エッセイスト 玉村豊男氏をお迎えして(テーマ「山国の民の想像力」)開催するが、これについてパンフレットの内容を検討した。配布は2月初旬。一般へのPRをどのようにしたらよいか課題となった。

### 第2回建築家カタログ作成設計特別委員会 久保田 三代

12月27日、建築家カタログの作成に向けて、正副代表を交えて開催。本の主旨を全会員に説明し、「参加人員の確認と、カタログに対する会員の意見を知る」が急務であるとして、至急アンケートを行うこととなった。

### 第6回理事会・技術交流会・新年会 土屋長命

1月31日長野市山王共済会館にて開催。理事会での主な議事は、▶正会員1名、賛助会員3社の入会承認▶会員増強について代表よりクラブ活性化のため協力要請▶定款改正(案)についてのアンケート結果、内容▶信州建築家カタログはアンケートを実施、会員の意見を聞く—技術交流会は中部電力(株)によるエコアイス(氷蓄熱式空調システム)の説明会。33名が参加。引き続き新年会は来賓6名をお迎えし、30余名の出席で盛会。

### 第3回建築家カタログ作成設計特別委員会 久保田 三代

2月12日、仮称「信州建築家カタログ」アンケート回収後の対応について開催。アンケートの回収率を高めるため手分けして督促することとした。

### 第3回交流委員会 高橋重徳

2月24日に開催。賛助会員メーカーリスト改訂の進め方については、会員一覧表(目次)とメーカーカードの組合せの差替え方式とすることを確認し、今後費用と内容の検討を行い、来年度に発行するとして。また、コミュニケーションシートは早期に実施、配布することを再確認した。

### 第7回理事会 佐藤友治

3月10日開催。各委員会、支部役員会の報告、また専業設計事務所9社、メーカー代理店5社が賛助会へ入会された旨報告。定款改正は成案化を図ること、建築家カタログはアンケート結果を得て次の段階の検討を予定することを確認した。関東甲信越支部事務局原田次長出席。

### 第5回文化講演会 片倉隆幸

3月10日、長野市山王共済会館で第5回文化講演会をエッセイストの玉村豊男氏を招いて開催。約150人が参加したが、一般へのPRに力を入れたため一般参加が半数以上と大盛況。氏の国際的な風土のお話をお聞きし、山国の民が文化を創っている誇りをもてた。

## 平成9年度総会のご案内

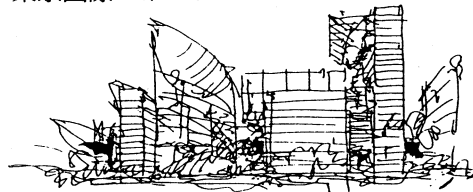
総務委員長 関 邦 則

通常総会が6月3日(火)に長野市の山王共済会館で開催されます。出澤代表になって初の総会です。定款の全面改正という重要議題がありますので多数の出席をお願いいたします。記念講演会は10周年ということもあってJIA前会長の鬼頭梓氏にお願いしています。恒例の会員作品展や学生卒業設計コンクール表彰式・発表展もありますのでご覧いただきたいと思っております。

## クラブアウトサイド

### お知らせ JIA設立10周年記念大会

- テーマ 「多重文化と建築—包容力のある社会を目指して」  
(アジアの建築家による国際会議 アルカンシアフォーラム—9同時開催)
- 会 期/1997年9月22日(月)~24日(水)
- 会 場/東京国際フォーラム



### — 新入会員紹介 —

#### 正会員

小宮山直樹 小宮山建築計画事務所(長野市)

#### 賛助会員(専業設計事務所)

アーキディアック環境計画研究所(松本市)、新井建築工房+設計同人NEXT(飯田市)、(株)環境計画(伊那市)、環境プランニング(飯田市)、君島弘章建築設計事務所(長野市)、彰建築設計事務所(佐久市)、諏訪n設計企画(茅野市)、(株)誠設計事務所(長野市)、NAO設計室(飯田市)

#### 賛助会員(メーカー・代理店)

オーデリック(株)長野営業所(長野市)、木村工機(株)長野営業所(長野市)、三洋電機環境設備(株)(長野市)、(株)日建エンジニアリング(松本市)、日本ヒート(株)(松本市)、(株)不二ファニチャー(岡谷市)、(株)山二(長野市)、ルームデザインハウス(長野市)



JIA長野県クラブ

編集人 関 邦則  
発行人 出澤 潔  
発行所 JIA長野県クラブ  
長野市大字南長野野字  
宮東426-1  
長野県建築士会館内  
TEL 026 (232) 3897  
FAX 026 (232) 5303  
作 成 新建新聞社